

「魚の口から銀貨」

マタイによる福音書 17章24～27節

聖学院幼稚園・小学校チャプレン 中村 謙一

夏休みが近づきました。自然の動植物をよく観察しましょう。神の御子、主イエス・キリスト、私たちの愛するイエス様も、自然に生きる動物と植物を愛され、よく観察して知っておられました。ただ見るだけでなく、どのような性質を持つのか、というところまでイエス様は動物と植物を観察しておられました。

さて、イエス様は、人を躓かせ、誤解させることは好まれませんでした。ある人々が、イエス様の弟子のペトロに「あなたたちの先生は神殿税を納めないのか」と言いました。この事はイエス様と弟子達がカファルナウムという町に来た時に起こりました。ペトロは「納めます」と言って、イエス様たちの泊まっていた家に戻りました。すると、イエス様から「シモン、あなたはどう思うか。地上の王は、税や貢物をだれから取り立てるのか。自分の子供たちからか、それともほかの人々からか。」という質問がペトロに与えられました。「シモン」とは「シモン・ペトロ」というペトロの名前でした。ペトロは「ほかの人々からです。」と答えました。するとイエス様は「では、子供たちは納めなくてよいわけだ。」と言いました。これがある人々からの「あなたたちの先生は神殿税を納めないのか」という質問に対するイエス様の答えでした。地上の王の子たちが税や貢物を納めなくてもよいように、イエス様は神殿の神の子なので、同様に、税や貢物は納めなくてもよい、という考えをペトロに教えられました。イエス様は、クリスマスにお生まれになった神の御子、救い主でした。エルサレム神殿のことを、イエス様は「父の家」と呼んでいました。ここで「父」とは、「父なる神様」という意味です。神の御子イエス様にとっては、エルサレム神殿は父なる神様の家でした。だから、神殿税を納めなくてもよいという特別な権利を、神の御子イエス様は持っていました。当時の世界の王の子供たちも、同じ権利を持っていました。王の子ですから税金は納めませんでした。

しかし、イエス様は、ここで、よく考えられました。税を集める人たちに、イエス様が神の御子だから神殿税を納めなくてよい、と言っても、イエス様を信じていないこの税を集める人たちには理解できません。イエス様が、本当に、神の御子であることは、イエス様を信じている人にしか心から理解できないのでした。このままでは、税を集める人々たちがイエス様に躓いて、イエス様を誤解してしまいます。そこでイエス様は愛の神ですから、愛の配慮をされました。配慮とは心を配ることです。優しいことをすることです。27節でイエス様は「しかし、彼らを躓かせないようにしよう。」と言いました。イエス様は、このように優しい心を持った神の御子でした。自分から税を取り立てようとする人たちへも、イエス様は愛の配慮を、心配りを忘れません。イエス様はペトロに命じました。「湖に行って釣りをしなさい。最初に釣れた魚を取って口を開けると、銀貨が一枚見つかるはずだ。それを取って、わたしとあなたの分として納めなさい。」つまり、イエス様は、自分だけでなく弟子のペトロの分も神殿税を支払ったのでした。

しかも、神殿税である銀貨一枚はどこから得たのでしょうか。イエス様は、何と、弟子のペトロにガリラヤ

湖で釣りをさせて、最初に釣れた魚の口の中に入っている銀貨を見つけさせ、それを支払いなさいと命じたのです。ガリラヤ湖には、ピーター・フィッシュという魚が沢山いました。今でもいます。この魚は、自分の子供の魚を自分の口の中で育てます。そして、子供の魚がある程度大きくなると、いつまでも自分の口の中で生きるのではなく、口の外へ追い出すために、親魚はわざと小石を飲み込み、口の中に小石を置きます。すると、もう子供の魚は親魚の口の中にある石が邪魔で戻れなくなり、外の世界で成長することへと導かれるのです。だから、時々、子供の魚を追い出すための小石と一緒に、湖に落としたコインを親魚が飲み込んでしまうことがあるのです。ペトロは漁師ですから、魚をよく観察して、その特色をよく知り、魚がコインを飲み込む習慣のことも知っていたと思われます。しかし、イエス様は大工でした。漁師ではありません。それなのに、イエス様は、魚の事をよく観察して、コインを飲み込むことがあるのを知っていて、奇跡の力を持って、ペトロに銀貨を口の中に入れていた魚を釣らせたのです。イエス様の魚の観察が神の御業に用いられたのです。

このように、イエス様は、自然を観察される神の御子でありました。自然を愛し魚を愛し、税金を取り立てる人たちも愛されていました。だから、愛の心配りができたのです。さあ、夏休みが近づいています。皆さんも、イエス様のように、大自然の中で生きている動物や植物をよく観察しましょう。皆さんの観察が、将来、神様の役に立つことに用いられるかもしれません。大工であったイエス様はガリラヤ湖の魚のことをよく知っていました。皆さんも、この夏休みに、神様が造られた大自然をよく観察し、知識を深め蓄えていってください。自然の動物や植物についての知識は、自然を守り保つために用いましょう。残念ながら、人間は罪深く、自然を汚してしまっています。動物や植物が住めないほど汚された世界は、人間も住めません。そのような事にならないように、私たちは、イエス様から愛の教えをいただいて、この自然に愛の配慮ができるように、自然保護の考えも深めましょう。祈ります。

天にいます父なる神様、神の御子であられるイエス様の御名を心から賛美致します。ハレルヤ！主よ、夏休みが近づいています。どうか、児童生徒らを夏休みの間、事故や怪我からお守りください。夏休みの間に、あなたか造られた大自然を観察し、あなたの愛の御心のために役立てることを得させて下さい。この祈り、十字架と復活の神の御子、主イエス・キリスト、イエス様の御名によって、御前にお献げ致します。アーメン。

2018年7月9日 聖学院小学校全クラス礼拝